

高機能材が増加、新素材対応は日々、トライアル

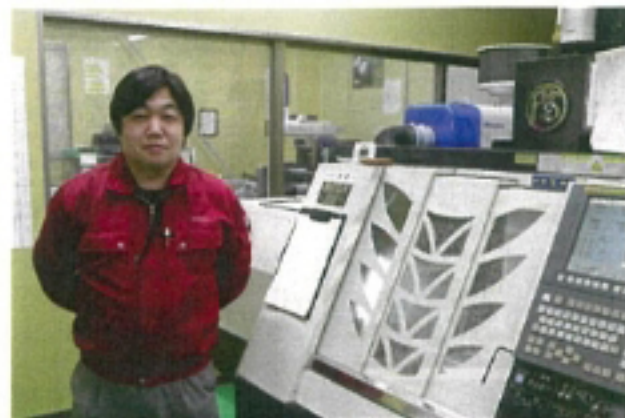
— プラスチック加工興和（静岡）訪問 —



ツーリングをスーパーG1チャックに変えて見ると、直ぐに精度向上が実感できたと担当者も語った

「ファナック製ロボドリルに スーパーG1チャック装填。 穴あけ、面粗度アップに驚嘆」

仕事内容を社名に冠する、そのエッセンスを凝縮した「下請けにはならない」という信念とも相まって、実に興味を引く。個人創業(平成7年)時代を含めると、樹脂(プラスチック)加工に向き合ってきた20年以上が経過。特定の素材に特化したシステムに、多彩な対応力の「源泉」を見出せる気がする。



土屋工場長は、MEGA(右)のような微細加工機でなくとも、スーパーG1チャックである程度までの精度に迫れると言う

食品・医療分野に注力

創業当初からの半導体関連が好調

創業者の子息で、この道23年になる土屋正和

工場長は「創業当初はゼロスタート。仕事の確保から始まったが、2、3年で軌道に乗り、以来、人と設備を充実させていくことに邁進してきた。特に創業者が刃物制作に長年従事してきたことから、その重要性を認識。樹脂加工専門の工器具が少ないこともあり、10年前からは社内で刃物の製造するようにならざるを得ない」と語る。

独自の刃物を作り込むことにより、仕事の効率化を追求する一方、社内の技術蓄積を図っていく。

最近では、半導体分野の仕事が増えている。1社に集中しないよう、配慮している。ユキワ製スーパーG1チャックは、昨年の9月に購入した。新設備の導入時に、現状の設備とツーリングを別けたと地元商社に相談したところ、勧められたと語る。

樹脂加工向けの 特殊仕様工具は すべて内製化

「たとえば、三菱製のワイヤ放電加工機MVL200で旋削用工具、1200で旋削用工具、超硬エンドミルを内製化。もちろん、標準品の購入はあるが、特殊仕様はすべて内製化している」と語る。

「ファナック製ロボドリルに装填したところ、それまで出なかつた精度が出るようになった。3年前に、様々な産業のMEGA Aを先行投資的に導入した。軸の精度がマイクロという精度まで、微小径の穴あけで活用している。ロボドリルは軸の精度で比べると厳しい

「高機能材が増えてきており、新しい素材への対応に、日々、トライアルしている。一番、注力しているのは機械設備。どのような仕事か、どの程度できるか、おおよそ見当をつけていただくことができるからだ。」



内製化している工具を手にとってもらった

地元商社の勧めで昨年9月にスーパーG1チャック購入、今では総計100本に

ロボドリルでは考えられない精度レベル (土屋正和工場長)

が、スーパーG1チャックにより、振れ精度が抑えられる程度まで出来る事がわかってきた。その後、庄田の大型ルーターやツガミのマシンングにもスーパーG1チャックを装填。半年も経たないうちに100本、取り揃えるまでに。BT30番の機械は、今後、すべてスーパーG1チャックに置き換えていく」という惚れこみようだ。

高精度ツーリングシステム スーパーG1チャック



精度をとことん
突き詰めると、
コレット式に辿り着く



ユキワだけ精度を 保証！ しています。